

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171000359		
法人名	有限会社 敬愛サービス		
事業所名	グループホーム ななかまど大麻		
所在地	北海道江別市大麻元町192番地28		
自己評価作成日	令和2年3月15日	評価結果市町村受理日	令和2年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171000359-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和2年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の「一人ひとりの喜怒哀楽で輝くところ」の理念の下、人のもつさまざまな感情の中で喜びや楽しみだけではなく怒りや悲しみも全て受け止めその人らしく、充実した日常生活を送ることができる様、職員一同お手伝いさせていただいております。また、自治会や地域への行事にも積極的に参加をし、地域社会の一員として生活の継続に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームななかまど大麻は、JR大麻駅から車で5分程の緑豊かな住宅街に位置し、今年、開設から18年を迎えます。2年前に改めて全職員で理念を話し合い、「一人ひとりの喜怒哀楽で輝くところ」を策定し、系列事業所と共に基本理念としました。基本理念に沿って、事業理念・ケア理念も新たにし、ケアサービスの根幹として職員の意識を高め、質の向上に努めています。系列事業所とは常に連携し、季節の行事も合同で行うなど、利用者、職員の交流も図り、協力体制を築いています。

地域社会の一員である事を意識し、年間を通して常時外出する機会を作っています。全員で外出することが多く、利用者の日常生活に活気や開放感が生まれ、楽しみや活動の機会が広がっています。利用者全員が個別に町内会に加入し、積極的に行事に参加して住民と触れ合うなど、より豊かな生活を町内会と協力して実現しています。

事業所の特徴として、医療機関との協力体制をパンフレットにも記載しています。ほぼ毎日の訪問診療により適切な医療が受けられ、週1回の訪問看護師により利用者の体調や様子についても小まめに報告、相談する事で、安心した毎日を過ごせるようにしています。職員の入れ替わりが少なく、長期勤続者が多いので、利用者との距離も近く、毎日ゆったりとした時間を共有しています。代表者は、職員の意見や提案に耳を傾けながら、事業所の更なる向上を目指し意欲的に取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果		項 目		取組の成果	
		○	↓該当するものに○印			○	↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目：23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある			○	3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が	令和元年度 株式会社ソーシャルリサーチ			
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全員で考え、代表がまとめ日誌に記載しいつも目に入るところに掲げ、ユニット会議には職員全員で唱和し確認している。	2年前に職員の思いを反映した理念を策定し、系列事業所と共通の理念として掲げ、目指すケアの実践に効果を上げています。ユニット会議で唱和する等、初心に戻る道標である事を理解し、日々の支援内容を振り返っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内で行われるバーベキューや日帰り温泉に参加したりしています。散歩に出かけるときは、近隣の方に挨拶をし、積極的に声を掛けている。	事業所は地域との関係を大切にし、利用者全員が町内会に加入しています。ほとんどの利用者が町内会行事に参加し、地元住民との交流を深めています。避難訓練も相互に参加する等、町内会とも良好な関係を築き、散歩での挨拶や野菜の差し入れなど、自然な近所付き合いを行っています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を対象に認知症を理解していただくよう、職員も交わえ研修を行っている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度町内会、包括、民生委員、ご家族、利用者様等参加で意見や希望などを聞き参考にし、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催し、前回の期待項目であった家族等の参加は、職員からの呼びかけにより増えています。現況報告に対し、参加者から出された意見や提案を、運営やケアの充実に活かしています。	運営推進会議に、家族等の参加は若干得られるようになってきました。しかし参加率を高める為に、今後も事業所からの工夫や取り組みを続け、さらなる会議の活性化を図る事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表が中心となり取り組んでいる。	行政との関わりは代表が担い、情報の共有や課題解決の協議を行っています。市主催の研修に職員が参加しています。実地指導や要介護認定更新時等に来訪の担当者に、事業所の現状を伝え助言や指導を仰ぎ、成年後見制度活用では、社協とも連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開錠しており、ユニット会議で身体拘束についての理解を共有して、「身体拘束はしない」という事を全職員の共通で実施している。	指針を整備し、系列の事業所と合同で身体的拘束適正化検討委員会を設置、年4回開催しています。職員は、外・内部研修にて、身体拘束の弊害について理解を深め、身体拘束をしないケアを推進しています。利用者の状態変化に応じてリスク等を家族と話し合い、センサー使用時には家族の同意を得ています。玄関は夜間のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やユニット会議にて学ぶ機会を多く持ち、虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している利用者様もいて、ユニット会議で代表より必要性説明、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書の説明する時は、専門用語を使うことなく、十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時には、要望などを聞き運営に反映させています。利用者様には、モニタリングで要望を聞き全職員で共有しています。	家族等には、利用者個別の状況を毎月手紙で報告しています。機関誌は年1回送付しています。家族等の来訪時には日々の様子を伝え、来訪が困難な場合は、電話やメールで詳細を報告し、内容によっては介護計画に反映しています。ほとんどの利用者は意思の疎通が可能で、関わりから得た要望は、その都度解決策を検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で気づいたことや、意見や思ったことを伝えられるように努め、働きやすい職場を目指しています。	朝・夕の申し送りや毎月のユニット会議の他に、LINE等のSNSを活用し、常に新しい情報を共有し連携を図っています。代表者は、ユニット会議に参加し、SNSにも加わり、事業所の実情を把握し、さらに年2回の個人面談で職員の意見、要望を汲み取り、運営に活かしています。職員の提案で、事業所の環境美化に取り組む家族に好評を得ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めています	代表は個々の面談をする時間を設け、環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修を通し、学ぶ機会を多く持ち、経験の有無に関わらず、高めあう努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内のグループホームとの研修や交流会を通して、サービス向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が戸惑っていたり、困りごと等寄り添い、安心できる関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や今後についての話し合いをし、家族が面会に来園された際は気軽に話ができる様関係作りをして要望が出しやすくなるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談には迅速に対応し、ご本人様、ご家族様とも話し合いの場を持つよう配慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様と職員とのコミュニケーションを図り、共存共栄を目標にその人にあった支援に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事に参加していただいたり、面会時間などは設けず、ご家族の方がいつでも面会できる様に工夫している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで馴染みの場所へ行ったり、季節ごとの手紙または、電話などで関係が途切れることがない様に対応している。	家族等や定期的に野菜持参で来訪する友人など、利用者の馴染みの人や大切な人との繋がりを把握し、面会者を歓迎しています。利用者の昔話を傾聴したり、レクリエーション活動で懐かしい場所を訪れたり、電話や手紙の取次ぎなど、利用者が培ってきた繋がりを尊重した支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様同士の関係を把握するよう努め、共同空間の中で利用者様同士が自由に過ごせる場を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談を受け入れる体制にあり、継続的な関わりを持っています。また、ホームの行事などは事前にお知らせし、気軽に尋ねられる様配慮している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者様一人一人の今までの生活歴を十分に把握し、ご本人様の思いに近づけるよう努めています。	職員は、家族等からの情報と、利用者のふとした言葉や、希望の表出が困難な利用者の動作等から推察しています。言葉にならない思いにも添えるよう、職員間で検討しています。生寿司を食べたいとの要望に応え、利用者の満足度向上に繋げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は事前調査で行っている。使い慣れた家具などを利用し安心して生活できる様している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、月1回の体重測定、週1回の訪問看護も行い、職員は日々の様子を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々で課題を出し合い、毎月行われているユニット会議で議論し、作成している。	毎月のユニット会議でモニタリングを行い、職員の気づきを共有しています。本人、家族等の意向を踏まえて、介護支援専門員を中心に全職員で協議しています。評価をもとに3ヵ月毎に介護計画を作成し、本人に説明のうえ同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の個別の記録を取り、気づいたことは記録に記入。業務日誌や申し送りなどで情報交換を行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のご家族が来園された時または電話で連絡した際には、ご家族の希望を聞き改善できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練時には、消防立ち合いで避難訓練を行っている。不審者対策のため、玄関には人感センサーを取り付けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ毎日訪問診療の医師が来園し、一人一人診ていただいている。何かあれば、すぐに相談できる環境にある。	全利用者が24時間連絡体制の訪問協力医を主治医とし、ほぼ毎日診療可能です。週1度の訪問看護師による健康チェックも行い、医師との連携を図っています。専門科医への受診は家族等と協力し支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回入っており、健康管理の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、家族と連絡を密にしている。職員はご本人様の人体状況の把握に努め、退院後の支援について情報交換の場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	身体状況の異変、重度化した場合は医師、ご家族と共に話し合いをし、その方針を職員とケース記録、申し送り等で共有している。	入居時に、利用者、家族等に重度化や看取りの対応指針を説明し、同意を得ています。重篤時には、再度家族等の意向を確かめ、医療関係者や家族等と連携を取りながら方針を共有し、尊厳ある看取り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の指定病院を定めている。また、対応の流れを記載した一覧表を貼っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち合いのもと、昼・夜間の年二回の防災訓練の実施。また、消火訓練を行っている。	年2回の避難訓練を計画しており、昨年9月に消防署指導の下、1回目の昼想定火災訓練を行い、地域住民の参加がありました。停電に備え、自家発電機や食料、飲料水など、災害時備蓄品を確保しています。	法令に基づき、年2回の避難訓練を実施する予定となっています。火災だけでなく自然災害に対する避難訓練により、利用者が安全に避難出来る方法を全職員が身に付けられるよう体制強化を期待します。
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の誇りやプライバシーを損ねないように、職員が気を付けている。個人情報厳守するよう職員会議で話し合っている。	代表者や管理者は、日常業務の中で、利用者の尊厳維持に繋がる接遇への正しい理解に導き、職員の共通理解に努めています。職員からの声掛けが強い口調とならないように等、具体的な注意を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、複数の事柄から選んでいただき、本人に確認してもらい了承を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個別化や生活歴、本人のニーズを踏まえた上で出来るだけ希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の利用。ご本人様と一緒に洋服を購入したり、着替えの洋服選び等支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の身体状況に合わせ、食事に関わるお手伝いを一緒に行っている。行事の時は季節のメニューを取り入れている。	献立、食材は業者に委託し、栄養バランスが取れた食事を提供しています。月に数回、カタログからメニューを選ぶ楽しみも有ります。季節行事や誕生日には手作りケーキや握り寿司など、利用者の好物を用意しています。定期的に外食も企画し、満足度を高め、豊かな食事になる様に工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様、一人一人の状況に合わせた食事量、水分量を確保し、ケース記録に記入。申し送り、情報共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員と一緒に口腔ケアを行い、口腔内の確認を行っている。異変があれば、速やかに歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄を記録して情報共有を行っている。声掛けや誘導を行い、自立排泄できるようになるべく布パンツを使用するよう努めている。	利用者の半数以上が日中はパットを使っています。排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛けや誘導を行い、失敗の軽減に努め、トイレ排泄を支援しています。夜間のポータブルトイレ使用やベット上でのオムツ交換など、一人ひとりの状態に合わせた排泄介護を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排泄記録をつけ、排泄リズムを把握できるよう努めている。青汁や食物繊維のある飲み物を提供している。個々の体調に合わせて運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	利用者様の希望する時に合わせて入浴していただいている。身体状況を見て、安全に入浴するため、二人介助にて支援する場合もある。	入浴時はシャワーだけでなく、全員が入浴剤入りの湯船に浸かっています。毎日入浴可能ですが、週2回を基本とし、必要時は二人介助で安心感へ繋げています。利用者の思いの把握に努め、浴室で歌ったり、会話を楽しみ、寛げるようにしています。全員で温泉にも出かけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人になりたい時は居室へもどり休んで頂き、皆様でデイルームにてカラオケを歌ったり、楽しく過ごしていただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、職員全員で把握し、薬が変更したときも必ず申し送り等に記入し、体調の変化の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の情報を元に得意なことや趣味などを知り、本人のニーズにできるだけ応えられるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩をしたり近くをドライブしたり、月に一度程度は、全員で外出し楽しみながら生活できるように努めている。	日々の散歩や畑作業、買い物に加えて、月1度は系列事業所での昼食会に出掛けています。町内会行事の日帰り温泉やバーベキューを始め、季節に合わせた遠足、動物園見学、野球観戦、夏祭り、収穫祭などの野外行事には、ほとんどの利用者が参加し、気分転換を図り、閉じこもらない支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、本人の欲しいものなど、一緒に買い物に行くよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族と話したい時は、施設の電話や、携帯電話を持っている方は掛けられる様支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに置物や飾り物を変え、居心地よく過ごせるように工夫している。	2階建て共同住宅改造型で、廊下の死角をカバーする円形ミラーを設置し、安全に配慮しています。食堂兼居間は日当たりが良く、窓からは畑が見えて季節を感じます。居間には利用者が集まり、演歌を聴いたり、ビデオ映画を鑑賞したりと仲良く時間を共有しています。廊下には1年分の行事写真が壁一面に掲示され、立ち止まって思い出話に花を咲かせています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者を食事席が同じになるよう、都度考え、談話されている。時々、たたみの小上がりも使用。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け、落ち着いて過ごせるよう努めている。	利用者と家族等に、入居以前からの家具や調度品、飾り物などの持ち込みを勧め、利用者が安心して過ごせる環境作りに努めています。職員からの誕生日の色紙や家族写真、時計等を飾り、ぬり絵や編み物、書籍などの趣味の品も傍に置き、その人らしい居室にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりには目立つように蛍光テープなどを貼り、階段には滑り止め防止のテープなど使用して安全に努めている。		